

# HPV と HPV ワクチン接種:すべての親が知っておくべきこと

## HPV とは?

HPV は非常に一般的なウイルスで、10 人中 8 人が一生のうちに一度は感染します。一部の HPV 感染は、後年がんにつながる可能性があります。

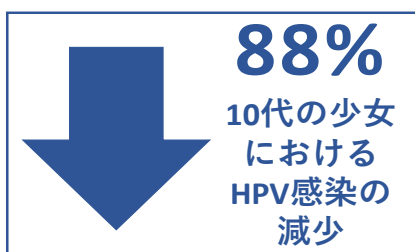


HPV は、米国では毎年男女約 37,000 人のがんを引き起こすと推定されており、これはメジャーリーグの野球の試合の平均観客数と同じです。

HPV によって引き起こされるがんの 1 つである子宮頸がんだけが、PAP test で早期に発見することができます。HPV によって引き起こされる他のがん(咽頭がん、生殖器がん、または肛門がん)は、より重篤になるまで検出されない場合があります。HPV ワクチン接種は、これらのがんの原因となる感染症を予防します。

## 子供を HPV から守るにはどうすればいいですか?

HPV ワクチン接種は、HPV によって引き起こされるがんの 90%以上を予防することができます。HPV ワクチンは非常に安全であり、科学的研究によると、HPV ワクチンの利点は潜在的なリスクをはるかに上回っています。2006 年以降、米国では 1 億 3,500 万回以上の接種が行われており、HPV ワクチンは 15 年以上にわたるモニタリングに裏打ちされた長い安全性の記録を持っています。一般的な副作用は軽度で、1~2 日以内に改善します。これらには、他のワクチンと同様に、接種した場所の痛み、発赤、腫れが含まれます。



HPV ワクチン接種は非常に効果的です。2006 年に HPV ワクチン接種が初めて推奨されて以来、ほとんどの HPV がんの原因となる HPV 型 HPV の感染は、10 代の少女で 88%、若年成人女性で 81%減少した。

HPV に対するワクチン接種は、The federal Advisory Committee on Immunization Practices(連邦予防接種諮問委員会)、The American Academy of Pediatrics (米小児科学会)、および The American Academy of Family Physicians (米国家庭医学会)によって推奨されています。また、The American Cancer Society (米がん協会)と California's Cancer Prevention Act(California 州のがん予防法)でも推奨されています。

# HPV と HPV ワクチン接種:すべての親が知っておくべきこと

## 誰がいつワクチンを接種すべきですか？



ワクチンは若い年齢で接種するとより効果的であるため、HPV ワクチンは 9 歳から 12 歳までのすべての子供に 2 回接種が推奨され、2 回目の接種は 8 年生が始まる前に行う必要があります。

(HPV ワクチンの初回接種を後回しにする子供は、3 回の接種が必要になる場合があります。HPV ワクチンは、百日咳を予防するための Tdap や細菌性髄膜炎を予防するための髄膜炎菌ワクチンなど、他の思春期のワクチンと同時に接種されることがよくあります。

## 子供用の HPV ワクチンはどこで受けられますか？

かかりつけの医療従事者、薬剤師、または地域の保健所に、HPV ワクチンの詳細と入手先について尋ねてください。ワクチンはほとんどの健康保険プランでカバーされています。健康保険に加入していなくても、お子さんは予防接種を受けることができます。Vaccines for Children(VFC)プログラムは、18 歳までの無保険の子供、またはワクチンの費用が保険でカバーされていない子供に無料のワクチンを提供します。

[VFC](#) については、あなたの医療提供者または[地域の保健局](#)にお問い合わせください。あなたの[地域](#)で VFC に参加している医師を探してください。

HPV、ワクチン、がん予防の詳細については、[疾病管理予防センター](#)を訪れてください。